



林豹吉郎 篇3

天誅組、逆賊から英雄へ

高取藩に敗れた天誅組は再び、天辻峠（五條市）まで退却しました。その後も各地で激しく抵抗しますが、圧倒的な幕府軍の勢力に戦況は、不利なものとなっていきました。

天誅組は、再起を誓いながら、やむなく十津川を脱出し、新宮から海路を長州（ちやうしやう）に向かおうと南下しましたが、紀州勢にはばまれたために北上を続けました。そして文久3年（1863年）9月24日には、吉野の鷺家口（わしかぐち）（東吉野村）へと至ります。この時、鷺家口に彦根藩、鷺家に紀州藩が入り、要所を固めていました。ここで天誅組と幕府軍との激しい戦闘が繰り広げられ、天誅組は、鷺家口で壊滅してしまいました。ここで、宇陀出身の林豹吉郎も戦死してしまいました。この戦いによって、普段静かな山村は、たいへんな騒動になったのでした。この戦いは、「天誅組の変」とも呼ばれています。

この年、天誅組は当時の体制に反逆する勢力となっていました。時勢が変わり、明治維新後は、天誅組に関する評価が変わってきます。天誅組の変は、明治維新（1868年）の5年前の出来事ですが、この行動が「明治維新の魁」と評価され、五條は明治維新発祥の地ともいわれています。

林豹吉郎は、明治二年（1908年）、明治政府から正五位という位階（功績のある人に与えられる位）を与えられ、大宇陀春日にある慶恩寺に顕彰碑が建てられました。その後、昭和7年（1932年）には、「天誅義士戦死70年」を記念して、誕生地の大宇陀拾生にも顕彰碑が建てられました。

豹吉郎は、今、東吉野村小川の明治谷墓地に眠っています。また、豹吉郎に関する資料は、五條市文化博物館に所蔵されています。

